

子ども時代の逆境的体験と産後 1 ヶ月時のエジンバラ産後うつ病 質問票得点の関連性についての後方視的調査

1. 研究の対象

2020 年 1 月から 2025 年 3 月の期間に当院周産期メンタル外来を受診された褥婦の方

2. 研究期間

研究実施許可後～2027 年 3 月 31 日

3. 研究目的・方法

研究目的: 本研究では岩手医科大学附属病院周産期メンタルヘルス外来(以下、当科外来)を受診した患者さんの子ども時代の逆境的体験(ACEs)のスコアと産後1ヶ月時のエジンバラ産後うつ病質問票得点(EPDS)の関連を明らかにすることを目的としています。

ACEs は、小児期における被虐待や機能不全家族との生活による困難な体験のことを指し、これまでに成人期以降のさまざまな精神疾患との関連があることが分かっています。

産後うつ病は周産期に生じる代表的な精神疾患であり、母親の養育能力の低下や自殺、ならびに児童虐待のリスクが高まるため、早期発見し適切に対応することが求められています。ACEs は、成人期以降のうつ病についても多くの研究でその関連性が確かめられていますが、産後うつ病との関連する調査はまだまだ少ない現状にあります。本研究で ACEs スコアと産後うつ病に対するスクリーニング検査として開発された自己記入式の評価法である EPDS との関連性が明らかになれば、産後うつ病のリスク因子として ACEs による情報を活用することで、産後うつ病への早期介入ならびに予防に寄与できると考えています。

方法: 当科受診された際の臨床情報から後方視的に解析調査を行います。この研究に関して新たに患者さんに行っていただくことはありませんし、費用もかかりません。この研究では当科において既に管理している患者さんのデータを使用させていただきます。患者さん個人のお名前や、個人を特定できる情報は一切公表いたしません。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

<患者情報>

診療録より情報を収集します。具体的には、産後 1 ヶ月時の年齢、出産前における婚姻の有無、妊娠の計画性、妊娠既往、分娩様式、分娩時妊娠週数、お子様の体重、NICU 入院の有無、産後のサポートの有無、併存精神疾患の有無等です。

<自記式質問紙>

周産期メンタルヘルス外来の通常の診療の中で治療目的のために全例行っている質問紙で

す。

- ・子ども時代の逆境体験(ACEs)についての質問票
- ・エジンバラ産後うつ病質問票
- ・赤ちゃんへの気持ち質問表

5. 研究費および利益相反

研究費は神経精神科学講座の講座研究費を用いて行われます。本研究に関わる研究者は、利害関係が想定される企業等との経済的な利益関係(利益相反)はありません。

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

岩手医科大学附属病院(矢巾新病院)神経精神科学講座

本多 笑奈、福本 健太郎

住所: 〒028-3695 紫波郡矢巾町医大通2丁目1番1号

TEL: 019-613-7111(代表)(内線 2011)

FAX: 019-907-6892

研究責任者:

岩手医科大学医学部神経精神科学講座 福本 健太郎